

簡易版ティーチングポートフォリオ作成ワークショップの設計

Instructional Designing of Jin-ai's Teaching Portfolio Workshop

田中 洋一*1*2, 山川 修*3

Yoichi TANAKA*1*2, Osamu YAMAKAWA*3

*1 仁愛女子短期大学, *2 熊本大学大学院, *3 福井県立大学

*1 Jin-ai Women's College, *2 Kumamoto University, *3 Fukui Prefectural University

<あらまし> 仁愛女子短期大学では、根拠資料（エビデンス）を添付したティーチング・ステートメントを簡易版ティーチング・ポートフォリオ（以下、TP と記す）と定義し、2020年度末までに全教員が作成することを義務づけた。本稿では、FD 研修会（90分）2回分を活用した簡易版 TP 作成ワークショップの設計に関して報告する。

<キーワード> ティーチング・ポートフォリオ, ティーチング・ステートメント, TP チャート

1. はじめに

ティーチング・ポートフォリオ（以下、TP と記す）とは、「自らの教育活動について振り返り、その記述を根拠資料（エビデンス）によって裏付けた厳選された記録（栗田訳、セルディン著 2007）」と定義されている。TP は、A4 判で 8 ページから 10 ページほどの本文とエビデンスから構成される文書であり、3 日間のワークショップで作成する場合が多い。TP 作成のための準備課題として、スタートアップシート及び TP チャートが利用される。TP チャートとは、教育活動の俯瞰と振り返りを行い、授業改善につなげることを目的とした A3 判のワークシートである（栗田 2018）。

現在の私立大学等改革総合支援事業タイプ 1 では、「授業を担当する専任教員等に対し、TP の作成を導入するとともに、教育改善又は教員等の教育業績の評価に活用する仕組みがありますか。」という設問がある。上記設問の要件には、「TP とは、大学等の教員等が自分の授業や指導の業績を根拠に基づく『教育業績ファイル』等の形で記録するものを指す。」とある。また、同 Q&A には、「本設問でいう TP は、単に研究業績のみを記載した、教員業績書では該当しません。教育活動、教育業績等について、教育理念から成果までを自己省察等を伴い記載するものを想定します。」とある。

仁愛女子短期大学（以下、本学と記す）では、根拠資料（エビデンス）を添付したティーチング・ステートメント（以下、TS と記す）を簡易版 TP と定義し、2020 年までに全教員が作成す

ることを義務づけた。TS とは、自らの教育活動について振り返り、責任、理念、方針・方法、評価・成果、目標を A4 判 1~2 ページで記述した文書である。本稿では、FD 研修会（90分）2回分を活用した簡易版 TP 作成ワークショップの設計に関して報告する。

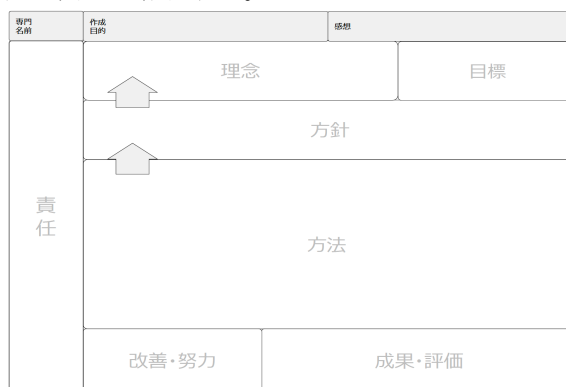


図 1. TP チャート用ワークシート

2. 仁短 TP 作成ワークショップの歴史

2012 年 9 月に本学で開催した F レックス（福井県内大学連携組織）FD 合宿研修会の 1 セッション（3 時間）として、栗田佳代子氏（現在、東京大学）を講師とした TP に関する講演及びミニワークショップを実施し、本学教員のほぼ全員が参加し、TP チャートを作成した。

F レックスでは、2013 年 3 月から毎年 TP 作成ワークショップ（3 日間）を開催しており、本学教員には数名の TP 作成者及び TP 作成ワークショップのメンター経験者がいる。2017 年 3 月には本学にて第 5 回 F レックス TP 作成ワークショップを開催した。その際、2016 年 12 月に本学教員対象の TP チャート作成ワークショップ（本

学FD研修会)を田中が担当し、本学教員のほぼ全員が参加した。

TPチャート作成ワークショップに参加した教員の満足度は高いが、3日間のTP作成ワークショップに参加する教員は少ないのが課題である。

3. 簡易版TP作成ワークショップの設計

2018年度から東京大学等にて、栗田氏を講師としたTS作成ワークショップが開催されるようになった。TS作成ワークショップは、1日から1日半程度で実施されることが多い。筆者らは、2019年5月に芝浦工業大学にて開催された1日のワークショップに参加した。TSを自ら作成した経験からTSに根拠資料(エビデンス)を付ける簡易版TPならば、本学教員全員へ義務化可能だと考え、実施することとなった。ただし、丸1日のFD研修会を開催することは難しいため、2回のFD研修会から構成する簡易版TP作成ワークショップを設計した。2019年度は、田中がスーパーバイザーを担当し、下記の流れで実施した。

①事前課題：TPチャートの作成



②1回目のFD研修会(90分)

「TPチャートの見直し」

- ・ペアメンタリングの説明
- ・ペアメンタリング1巡目
- ・ペアメンタリング2巡目



③中間課題：TSの作成

※TSの見本(田中作成)とテンプレートの配布



④2回目のFD研修会(90分)

「TSの見直し」

- ・ペアメンタリングの見本
- ・ペアメンタリング1巡目
- ・ペアメンタリング2巡目



⑤事後課題：TSの完成稿提出



⑥スーパーバイザーのチェック



⑦TSの再提出(教員による)



⑧簡易版TPの完成(エビデンス付き)

4. おわりに

2回目のFD研修会終了時に、「問い①：対話で理念が深まりましたか?」「問い②：感想」という簡単なアンケート(匿名式)を実施した。問い①では、下記のような回答があった。「異分野の教育スタイルを知ることで自身の考えや想いを深めることができた」「説明不足に気づき、対話の必要性を感じた」「質問を受け、自分に問いかけてみることで、理念について自分の考えが一人よがりな表現になっていることに気づけたり、深いところまで考えたりして整理できた」「とりあえず作成したTPだったので、対話によって考え方が深まった」「自分の振り返りが対話によってできた」「2名ともに同じ箇所に対して興味を抱かれたので、これで良いという確信が持てた」「異なる分野の教員の目線は新鮮で客観的意見として受け入れられた」「相手のTPに関する話が自分の理念への刺激になった」。

今回、本学で実施した簡易版TP作成ワークショップを振り返ると、3日間を実施するTP作成ワークショップのような教育理念の深まりまでは期待できないが、異分野同士で4巡対話することによる自己省察が意義深いことは確認された。また、田中が提示したTS見本の【理念】において、教育理念のもとになる「私の人生の核心」を記述していたことで、「人生の核心」から「理念」を導いた方が多かったことは興味深かった。田中が「人生の核心」から教育理念を記述した理由は、一般人を対象として山川らが実施しているライフ・デザイン・ポートフォリオにおいて、対話によって導き出す理念が「私の人生の核心」だからである。今後、簡易版TPの完成稿を分析した上で、最適な簡易版TP作成ワークショップの再設計をしていく予定である。

参考文献

- 大学評価・学位授与機構監訳・栗田佳代子訳 ピーター・セルディン著(2007) 大学教育を変える教育業績記録, 玉川大学出版部
- 栗田佳代子・吉田壘・大野智久(編著)(2018) 教師のための「なりたい教師」になれる本!, 学陽書房